

平成 30 年度
第 1 回南相馬市総合計画審議会
会 議 録

南相馬市総合計画審議会

第1回南相馬市総合計画審議会 会議録

日	時	平成30年10月1日(月)14時00分(開会)～16時00分(閉会)
場	所	本庁舎3階第一会議室
出 席 者		<p>○出席委員(17名) 長谷川和子さん、中澤翔平君、今野秀幸君、渡邊純子さん、星直子さん、 村田純子さん、草野繁春君、高橋隆助君、志賀弘紀君、山見重信君、 佐久間光弘君、林勝典君、郡昌弘君、高橋良輔君、今西一男君、 半谷恵美子さん、長澤利枝さん</p> <p>○欠席委員(3名) 小谷津良美さん、平田廣昭君、高橋真君</p> <p>○説明員 市長 門馬和夫君、復興企画部長 庄子まゆみさん 企画課長 門馬哲也君、企画係長 藤原央行君、企画係主査 大和田智之君</p>
次 第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 委員紹介 5. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長の選出 (2) 会長挨拶 (3) 会長職務代理者の指名 (4) 会議録署名人、書記の指名 (5) 会期の決定 (6) 説明 <ol style="list-style-type: none"> ①総合計画審議会の役割と目的 ②後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題 ③南相馬市復興総合計画策定スケジュール (7) 質疑意見交換 6. その他 7. 閉会
議 事		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会(14時00分) 2. 委嘱状交付 (市長から各委員への委嘱状交付) 3. 市長挨拶 <p>○市長 ただいま、20名の方に南相馬市総合計画審議会委員ということで委嘱申し上げました。皆様には、まちづくりの基本となる南相馬市復興総合計画の後期基本計画について審議をいただき、適切なご指導、アドバイスをいただきたいと考えております。</p>

南相馬市では、平成27年3月に前期5年・後期5年の計10年間の「南相馬市復興総合計画」を策定しており、平成28年2月には主に人口減少対策として「南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

しかし、平成27年7月に避難指示が解除されるなど、本市の状況が刻々と変化してきています。そのため、本来であれば前期基本計画期間は平成31年度までのところを、1年前倒しで後期基本計画に入る必要があると判断し、皆様に審議をお願いするところです。

また、本来は前期基本計画・後期基本計画はともにそれぞれ5年となっていますが、市長任期が4年であり、市長の考えとのすり合わせをする良い機会であること、全国的にも計画期間を4年にするという自治体も増えていることから、1年前倒しで計画策定を行うとともに、従来5年であった計画期間を4年間として計画策定を行いたいと考えています。

後期基本計画は、「南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含した計画とし、家族や友人とともに暮らせるまちづくりをしたいと考えています。

短い期間で集中的に審議することになりますが、これからの市の復興の基礎となる重要な案件でありますので、皆様のご助力をいただき、良い計画としていきたいと思っておりますので、重ねてご協力をお願いいたします。

4. 委員紹介

(事務局から、各委員及び事務局職員を紹介)

5. 議題

(1) 会長の選出

(出席委員は定足数に達しております。)

(委員推薦により、今西一男委員を会長に選出)

(2) 会長挨拶 (今西会長)

私自身、福島市内に居住しており、報道等で南相馬の状況を見聞きしたり、足を運び様子を見たりするようにしていましたが、実際にこのような重責を担当させていただくことは初めてです。

学識として一般的なことは発言していこうと思いますが、決定的なことは地元の方のご発言だと思っていますので、円滑にくみ取れるよう運営していきたいと考えております。よろしく申し上げます。

(3) 会長職務代理者の指名

(会長から、林勝典委員を会長職務代理者に指名)

(4) 会議録署名人、書記の指名

(会長から、会議録署名人は長谷川委員、今野委員を指名)

(会長から、書記は事務局大和田智之君を指名)

(5) 会期の決定

(協議により、会期は10月1日の一日(延長なし)と決定)

(6) 説明

- ①総合計画審議会の役割と目的(資料1)
 - ②後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題(資料2)
 - ③南相馬市復興総合計画策定スケジュール(資料3)
- (事務局から、資料1～3説明)

(7) 質疑意見交換

資料1

- 委員 本文内に「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と記載があるが、「【新たな復興総合計画の計画期間】」の図表内では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と記載されており、「市」という表記がない。本文内に「市」という表記を入れている理由は何か。
- 事務局 南相馬市で策定した計画ということで、“市”という文言を入れています。図表内では“市”という表記が入っていないが、本文で記載のものと同義であり、記載が漏れていました。
- 委員 「まち」という言葉は地域が限定されているようなニュアンスだと思うので、「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」という文言に違和感がどうしても残る。
- 事務局 計画書の名称については、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に倣って付けたものであり、それ以上のものを意識して決定したわけではありません。
- 委員 「市」だけでなく「南相馬市」としてはどうか。「南相馬」と具体的な文言を入れた方が市の独自性を表せるのではないか。
- 事務局 計画書では“南相馬市”と入っています。資料では説明上簡略していたため、誤解を与えてしまったところがあります。申し訳ありません。
- 会長 資料1「総合計画審議会の役割と目的」では「まち・ひと・しごと」という文言が3か所出てくるので、「南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」としたい。
- 委員 策定期限を1年前倒しした根本的な理由がわからない。
- 事務局 現在、南相馬市復興総合計画の前期基本計画は、5年で策定されていますが、策定時点では避難指示が解除されていなかったため、解除後の南相馬市のまちづくりを考えるために1年早めたというのが1点。
もう1点は、4年の市長任期にあわせて次の計画を策定することで市長の公約等の実現性が高まり、スピード感を持って時代の変化にあわせた計画を策定するため。この2点から4年としたところです。
- 委員 市長の任期にあわせるというのであれば、初めからそのようにすればよかったのではないか。計画にまずい点があったから直すということであれば真剣に考えるが、市長が変わったから変えるという理由だけではどうかと思う。

- 会長 市長が変わるたびに計画も変わるのか、という話になるのでおっしゃることは理解できる。一方で、時代の流れの速さもあり、復興という特殊な事情も抱えているので、いいタイミングでの見直しではないかとも思う。
- 委員 市長の任期にあわせて迅速に進めていくことが必要になってくると思うので、そのあたりは問題ないのではないか。
- 委員 この審議会は迅速性が大切な要素だと思う。市長が変わったら計画の内容も変わるということも加味しながらやっていかなければと思う。
- 会長 計画の継続性と迅速性を兼ね備えたものにしなくてはいけないということだと思う。これまでは継続性が考えられていたが、そのような難しい計画だという点は共通認識として持ってもらいたい。

資料2

- 委員 「7 就学前の子どもの数」について、無料化によって待機児童数が増えたとのことだが、子どもの数が減少しており、保育園や幼稚園の数は増加しているのに、それでも待機児童がいるというのはどういう理由なのか。
- 事務局 保育所では、子ども何人に対して何人の保育士が必要かというのが年齢によって定められています。例えば0歳児であれば3人に1人の保育士が、5歳であれば30人に1人というようになっており、低年齢の子どもを預けたいというニーズが高まると保育士がたくさん必要になります。現在はそのニーズに対し保育士が不足しているため、待機児童がどうしても減らないという状況です。

資料3

- 委員 南相馬市復興総合計画は市の最上位計画であるが、スケジュールにあるように、残り3回の審議でこれからの南相馬市のあり方が決められるのか、委員の皆さんの本当の意見が出しきれぬのか。
- 会長 第2～4回の審議会でのどのような内容を予定しているのか。
- 事務局 本日詳細はお示しできていませんが、計画の素案を2回目・3回目で審議検討をお願いしたいと考えています。素案については次回審議を賜りたい考えです。
- 委員 次回審議会までに計画素案はできるのか。
- 事務局 すでに7月にまちづくり懇談会を実施しており市民の皆様から様々な意見をいただいています。市の内部からも職員の提案も出ており、そういった意見を現在取りまとめているところです。

その他

- 委員 出生率が低く、子どもが少ない中で、これからどのようにしていけばいいのか大きな課題と感じている。また、核家族化の進行や離婚の増加により、子どもの不登校や虐待等が隠れたところで増加しており、子どもや家族の心の問題が、非常に大事になってきている。

○委員 幼稚園は以前、県とのつながりが強かったが、平成27年度からの「子ども子育て支援新制度」のスタートに伴い、市とのつながりが強化されたように思う。

ただし、まだまだ園側と市担当者側でお互い遠慮している状況がある。園側としては市の施策にはできる限り協力したいと考えているため、今後はもっと距離を縮めていければと思う。

○委員 資料2「後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題」の16にある【産業別就業者数】について、第一次産業就業者が大幅に減少していることがわかるが、市としてどのような対策を打っているのか。

また、資料2の18にある【水稻作付面積及び収穫量】は主食米のデータを用いているが、市内には主食米ではなく飼料米で水稻を再開している農家もある。水稻に拘らず、農業全体のデータを用いたグラフとしてほしい。

○委員 震災後はバスがかなり活躍しているという状況もあり、資料2の19にはバスの運行利用状況についてもデータをまとめてはどうか。

○委員 市民の健康に係る活動をしている者として、資料2の14でまとめられている健康診査の受診率の低さには心を痛めている。また、資料2に「観光」に関することが全く書かれていないが、市の収益増のため、もっと観光業の振興についてフォーカスすべきではないかと考える。

○委員 昨年度から今年度にかけて福祉に関する地域懇談会を開催しており、その中で地域コミュニティの希薄化や高齢者の増加等、多くの課題が挙げられている。高齢者を地域で支えていく社会資源やサービスの充実を図ることが地域づくりにつながり、なおかつ国が目指す地域包括ケアシステムの構築につながっていくため、そういった部分をどのように計画に反映していくのかについて注視していきたいと考えている。

○委員 農業の働き手が少ないため、農業と福祉の連携（障がい者に農業に従事してもらおう）という話が1週間ほど前に来て、本日から鹿島区での農業に着手している。少子高齢化のまちにとっては、障がい者の活用が重要視される時代になったと考えたところである。

資料2「後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題」の19の【市内タクシー台数乗務員数】について、小高区のタクシー台数が鹿島区よりも多いことに驚いている。小高区が光の当たる地域になりつつあると感じている。

○委員 南相馬市が抱える課題は日本全国でも同様であり、今後はいかに特徴を出していくかが重要になる。「心をひとつに」とはいうものの、未だ原発事故による地区ごとの溝は埋まっていない。大きな構想も大事だが、もっと地域に合ったものも見せていかないと、絵に描いた餅になるのではないかと。3地区すべてが輝き、方向性が見えるような構想を考えてほしい。

○委員 これからは地域性を十分に理解しながら、いかに人口減少を食い止めるかが重要である。じっくりと皆の知恵を出し合いながら良い方向に持っていければと考えている。

○委員 先ほど話があったとおり、主食用米については、資料2の18に記載のと

おりだが、水稻作付においては、実質的に2千5百町歩ほど作付している。作付に関して進んでいないようにみえて実際は進んでいるという状況を示すため、こういった数値を資料に掲載していただきたい。

また、高齢化した担い手に代わって法人が携わるようになってきているが、今後は、今の支え手が数年後には高齢者になり、農業に携われなくなってしまう。このため、どのような取り組みをすれば未来ある農業につながるのか検討し、魅力ある農業となるよう進めてほしい。

- 委員 資料2「後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題」の22にあるとおり消防団員数は年々減少している。その穴埋めのため、「機能別消防団」としてOBを活用している。各組織分野の知恵を拝借しながら、少しでも復興に寄与していければと考えている。

近年、核家族化が進行しており、子どもと片親が1対1となってその親からの逃げ場所がなくなっているなどの悪影響が出ていると感じる。やはり、子どもはたくさんの家族の中で育つことが理想と考えている。

- 委員 審議会の委嘱の文書が来る前に「市庁舎新設のアンケート」が届いた。復興総合計画にはそういった記載がないようだが、記載がなくても市庁舎の新設に着手できるのであれば、何のための復興総合計画かと思う。

また、計画期間を短縮するのは問題ないが、前期の評価はきちんとするべきである。各年の指標値がないとうまくいっているのかもわからないため、公表は迅速に行ってほしい。

- 委員 パークゴルフ場やテニスコートができたことで多くの人がスポーツをする環境は整ってきたが、なかなか利用者が伸びないのが現状である。計画内に何らかの形で入れることができないものかと考えている。

- 委員 前期基本計画の達成状況について明確に提示してほしい。

その上で、各区にどのように復興に向かっていくのか目標を明確に示すとともに、地域の活性化について具体策の提示をしてほしい。

また、遊休農地の有効活用を図ることで農業の再生をスタートさせないと、地域の生活環境が守れないと思う。そういったことを含め、多くの市民が納得できるような総合計画を策定していきたいと考えている。

- 委員 市民活動サポートセンターに登録しているのは約90団体。分野は様々だが、自分たちが動かないとまちづくりが進まないという思いは皆持っている。団体の活動に寄与できるような総合計画を作ればよいと考えている。

平成36年、37年に新庁舎の建設を予定しているとのことだが、建設場所が市の中心になりかねないため、どこに建設するかについても議論の中に入っているとありがたい。

- 委員 資料2「後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題」の25に課題と対応が記載されているが、それだけでなくこれからのことも考えていかなければいけないと思う。

ロボットテストフィールドやイノベーションコースト構想なども計画に記載されることを期待している。また、人口減少が進む中で、交流人口の拡大が重要

になってくると思うので、このことについても記載してほしい。

後期基本計画は4年計画とのことだが、次回以降は前期後期という括りがなくなるのかどうかについて教えてほしい。

○事務局 次回以降の計画については、今後どうするか未定です。後期基本計画が終了するタイミングで検討したいと考えています。

○委員 まちづくりの根幹は、持続可能な地域循環型社会を目指すことだと考えている。先人たちがこれまで築いてきた生業を復活させて、市内での循環型社会を構築して行ってほしいと考えている。

資料2「後期基本計画の策定に向けた南相馬市の現状と課題」の25は次回までもっと精査肉付けしてほしい。南相馬市はこのような地域づくりにしていく、と宣言するくらいの力強いメッセージを組み込んでほしい。

6 その他

(「なし」と呼ぶものあり)

7 閉会 (15時58分)

○会長 以上をもちまして、平成30年度第1回南相馬市総合計画審議会を閉会いたします。

会議録署名人

会長名 今西 一男

委員名 今野 香幸

委員名 長谷川 和子

